

【メディア掲載】
2022年9月30日

各位

株式会社 **キッツ**

代表取締役社長 河野 誠
千葉県美浜区中瀬一丁目10番1
6498(東証プライム)

Newsweek 誌に河野社長のインタビュー記事が掲載されました

当社の代表取締役社長 河野 誠のインタビュー記事が、世界的なビジネス週刊誌「Newsweek (ニューズウィーク) International 版 (2022年9月30日号)」に掲載されましたので、お知らせいたします。

「日本のモノづくり」に関する特集の中で、キッツの強みや、中長期の成長戦略、持続可能な未来の実現に向けた取り組み等が述べられています。

また、Newsweek と提携している英国の通信社「The Worldfolio」の Web サイトにも掲載されました。ぜひご覧ください。

■Newsweek (日本のモノづくり特集)

<https://d.newsweek.com/en/file/464808/japan-sepii-2022-report.pdf>

11 ページにキッツのインタビュー記事が掲載されています。

なお、上記 11 ページの日本語訳につきましては、本リリースの 2 ページ目をご覧ください。

■The Worldfolio 記事掲載サイト (インタビュー全文)

<https://www.theworldfolio.com/interviews/kitz-world-leader-in-fluid-control-technology/5394/>



以上

流体制御技術へのサステナブルな取り組み

株式会社キッツは、流体制御技術と材料開発の追求を通じて、持続可能な未来に貢献することを目指している。



「キッツグループでは、9万種類を超えるバルブなどの流体制御機器を扱っており、そのデザインや材質は多岐にわたります」

河野 誠

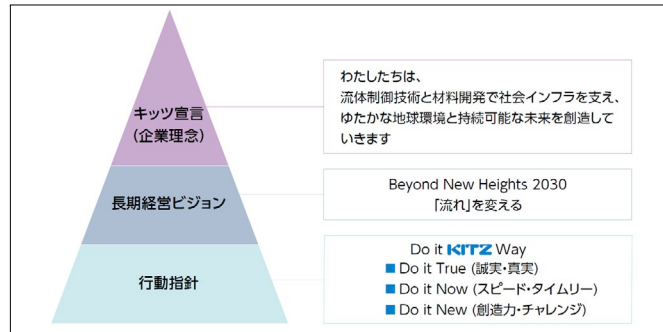
代表取締役社長
株式会社キッツ

1951年の創業以来、キッツは世界有数のバルブメーカー、国内最大手のバルブメーカーへと成長を遂げた企業である。

「現在も、社内生産拠点の生産体制の整備を進め、品質保証体制により、素材、製品、サービスのすべての段階において、お客様のご要望にお応えしています。また、ジャストインタイム生産方式により生産効率を大幅に向上させ、市場の多様な要求に応えながら最も信頼されるバルブメーカーとなることで、流体制御業界をリードしていきたいと考えています」と話すのは同社代表取締役社長の河野 誠氏。

この目標を達成するため、同社は自社設計と買収により製品範囲を拡大し、顧客により便利な製品を提供する戦略をとっている。さらに今年に入ってから、企業理念を「流体制御技術・材料の開発を通じて社会のインフラを支え、ゆたかな地球環境と持続可能な未来の実現に貢献」と一新したのも記憶に新しい。

その中には、バルブや流体制御製品を通じて、装置メーカーにソリューションを提供することも含



高周波電気炉で原材料を溶解する様子

キッツ長坂工場水素ステーション

まれている。例えば、半導体産業は同社の主要市場のひとつだ。

「我々が注目しているのは、半導体製造そのものではなく、周辺領域全体なのです。例えば、データセンターにはたくさんのサーバーがあり、発熱量が多いため、空調(AC)で機器を冷やす必要があります。その空調設備に、弊社のバタフライバルブが多く使われています」

「半導体産業は巨大であり、様々なアプローチが可能であるため、2022年から2024年にかけてのキッツグループの売上に大きく貢

献することは間違いないと思います」と河野氏が説明するように、一般的な半導体工場で使用される水の多くが超純水であることから、キッツはこの分野にバタフライバルブを供給している。

半導体以外では、「ファインケミカルプラントのニーズの高まりに対応できるよう、研究開発を進めています」という河野氏の言葉のとおり、ファインケミカル分野も需要が伸びている分野であり、顧客からはよりクリーンなバルブが求められている。

デジタル化と脱炭素化

デジタル化は、様々な産業のエネルギー効率を向上させるため

に不可欠な要素であり、デジタル化によって流体制御システムも大きく変わるだろうと考えられている。2022年2月に発表したキッツの長期経営ビジョンと中期経営計画では、「デジタル化」と「脱炭素化」を背景に、半導体やファインケミカル、水素といった成長分野への注力を掲げた。

「バルブに関しては、DXを使った”KITZスマートモニタリングシステム(KISMOS)”という自社開発のシステムで、バルブに搭載したセンサーで流量を監視し、そのデータをクラウド上に蓄積しています。このデータをもとに、交換の適切なタイミングを判断したり、異常内容を把握したりすることで、お客様に情報を提供することができます。最近では、そのデータを扱うために、DXを使った新しいサービス型のビジネスを立ち上げています。KISMOSは、弊社のバルブだけでなく、他社のバルブにも適用可能ですので、KISMOSによって我々の価値を示し、お客様に我々のバルブに乗り換えてもらえたらと思います」

今後、キッツが注力するのは、デジタル化や新エネルギーの制御を通じて、社会の持続的な成長に貢献することだと河野氏は語る。

「もちろん、会社というものは人によって運営されていますので、持続可能な企業を維持するためには人材が不可欠です。社員がキッツで働くことをより快適に感じ、誇りと満足感を持てるような職場環境を作ることが、私の使命です。社会から選ばれ続けるとともに、企業として行うサステナブルな経営がステークホルダーから評価されることが必要であると考えています」